【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第４区分
【発行日】平成17年8月11日(2005.8.11)

【公開番号】特開2000-79632(P2000-79632A)
【公開日】平成12年3月21日(2000.3.21)
【出願番号】特願平10-269522
【国際特許分類第７版】
　Ｂ２９Ｃ　49/00
　Ｂ６５Ｄ　 1/09
　Ｃ０８Ｌ　67/02
// Ｂ２９Ｋ　67:00
　Ｂ２９Ｌ　22:00
【ＦＩ】
　Ｂ２９Ｃ　49/00
　Ｃ０８Ｌ　67/02
　Ｂ６５Ｄ　 1/00　　Ｃ
　Ｂ２９Ｋ　67:00
　Ｂ２９Ｌ　22:00

【手続補正書】
【提出日】平成17年1月20日(2005.1.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１６】
相溶化度＝P_{NT}＋P_{TN}
　　P_{NT}；ＱＡ単位に隣接するＴＡ単位の存在確率
　　$P_{NT}=(I_{TEN}/2)/(\underline{I_{NEN}+}(I_{TEN}/2))$
　　P_{TN}；ＴＡ単位に隣接するＱＡ単位の存在確率
　　$P_{TN}=(I_{TEN}/2)/(\underline{I_{TET}+}(I_{TEN}/2))$
　　I_{TET}；ＴＡ－ＥＧ－ＴＡにおけるＥＧ上の水素の積分強度（ＮＭＲにて測定）
　　I_{NEN}；ＱＡ－ＥＧ－ＱＡにおけるＥＧ上の水素の積分強度（ＮＭＲにて測定）
　　I_{TEN}；ＱＡ－ＥＧ－ＴＡにおけるＥＧ上の水素の積分強度（ＮＭＲにて測定）
　ここで、ＱＡはナフタレンジカルボン酸単位、ＴＡはテレフタル酸単位、ＥＧはエチレングリコール単位である。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３６】
　共重合できるジカルボン酸成分として例えば、２，７－、１，５－、１，７－その他のナフタレンジカルボン酸の異性体；イソフタル酸、ジフェニルジカルボン酸、ジフェノキシエタンジカルボン酸、ジフェニルエーテルジカルボン酸、ジフェニルスルホンジカルボン酸等の如き芳香族ジカルボン酸；ヘキサヒドロテレフタル酸、ヘキサヒドロイソフタル酸等の如き脂環族ジカルボン酸；アジピン酸、セバチン酸、アゼライン酸等の如き脂肪族ジカルボン酸を例示することができ

る。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３７】
共重合できるグリコール成分として例えば、トリメチレングリコール、テトラメチレングリコール、ヘキサメチレングリコール、デカメチレングリコール、ネオペンチルグリコール、ジエチレングリコール、１,１－シクロヘキサンジメタノール、１,４－シクロヘキサンジメタノール、２,２－ビス（４’－β－ヒドロキシフェニル）プロパン、ビス（４’－β－ヒドロキシエトキシフェニル）スルホン酸を例示することができる。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４９】
共重合できる多官能化合物成分として例えば、ｐ－β－ヒドロキシエトキシ安息香酸、ε－オキシカプロン酸等の如きオキシ酸を例示することができる。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６７】
（７）相溶化度：
６００ＭＨｚのＮＭＲにて、エチレングリコールを構成する各水素の積分強度を測定し、次式にて計算した。
相溶化度＝P_{NT}＋P_{TN}
P_{NT}；ＱＡ単位に隣接するＴＡ単位の存在確率
$P_{NT}=(I_{TEN}/2)/(I_{NEN}+(I_{TEN}/2))$
P_{TN}；ＴＡ単位に隣接するＱＡ単位の存在確率
$P_{TN}=(I_{TEN}/2)/(I_{TET}+(I_{TEN}/2))$
I_{TET}；ＴＡ－ＥＧ－ＴＡにおけるＥＧ上の水素の積分強度（ＮＭＲにて測定）
I_{NEN}；ＱＡ－ＥＧ－ＱＡにおけるＥＧ上の水素の積分強度（ＮＭＲにて測定）
I_{TEN}；ＱＡ－ＥＧ－ＴＡにおけるＥＧ上の水素の積分強度（ＮＭＲにて測定）
ここで、ＱＡはナフタレンジカルボン酸単位、ＴＡはテレフタル酸単位、ＥＧはエチレングリコール単位を示す。